

### 岡田哲朗 校長 先生（商業科）

『ことばはいらない Maru in michigan』  
ジョンソン祥子



時間がなくて本が読めない時、ほんのりする一冊。  
アメリカの大自然の中で、2歳の一茶くんと柴犬のマルちゃんの触れ合う姿を写真におさめたブログ写真集。  
ことばはなくても気持ちは通じる、ほっとする本です。

### 吉田滋 教頭 先生（商業科）

『海賊とよばれた男』 百田尚樹



この作品は昨年の「第10回本屋大賞」を受賞したノンフィクション小説です。主人公は「ホット・モット・イデミツ」のテレビコマーシャルでお馴染みの、出光興産（石油会社）創業者です。日本の将来を見据え多くの苦難を乗り越え、大企業となるまでの過程が描かれています。自社の利益ではなく、日本のためにという創業者の信念が伝わってきます。

### 木山優子 先生（商業科）

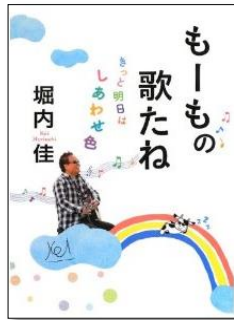
『三毛猫ホームズのあの日まで・その日から』  
赤川次郎



2011年3月11日・東日本大震災。その日から新聞は、社会の発信に重心を移した。震災から何年経っても復興は進んでいない。迷走する現代日本の未来のために作家・赤川次郎からの提言です。  
いつ何が起こるかわからない、でも知っておいた方が良いことではないかと思いました。

### 吉井照岳 先生（社会科）

『もーもの歌たね きっと明日はしあわせ色』  
堀内佳



高知県在住の盲目のシンガーソングライター堀内佳氏の自伝的エッセイ。  
コンサートでも語られる彼の半生を赤裸々に、ステージ上と変わらぬユーモアあふれる語り口で文章化しています。  
ページを開くと元気をくれます。読み出すと、どんどん入って行って、そこに広がる風景が見えてきます。そして読んでいる自分が素直になっていることに気づきます。

### 山下義史 先生（商業科）

『ボブという名のストリート・キャット』  
ポーエン・ジェームズ



ロンドンのホームレスの青年が一匹の野良猫と出会った。その名はボブ。  
麻薬に溺れ、明日に希望を見出せないその日暮らしのジェームズは、このボブによってセカンドチャンスをつかみ、麻薬依存症を克服し、自立への道を歩みだすことができた。  
決してうまい文章でもなく、おおきなドラマもないが何より真実の物語であることが静かに胸を打つ作品です。ぜひ読んでみてください。

### 柳田舞子 先生（商業科）

『白いネコは何をくれた？』 佐藤義典



ストーリー形式でマーケティングを学ぶ本です。学生の頃、自己分析を行う際に役立つと紹介され、手に取りました。  
仕事も恋愛も上手くいかない冴えないサラリーマンが言葉を話すネコと出会い、人生の戦略を考え、学び、実践することによって人生を変えていく成長物語です。  
自分について考えるきっかけにもなると思うので、ぜひ読んでみてください。

## 坂本由美子 先生(英語科)

### 『幸せのタネをまくと、幸せの花が咲く』 岡本一志



仏教の教えをわかりやすく説きながら、人生で大切なことを教えてくれる本です。人間関係で悩んでいた、自己嫌悪に陥って、気分が晴れないという人、ぜひ読んでみてください。太田知子さんのかわいらしい動物のイラストも心を和ませてくれます。

## 武部知之 先生(数学科)

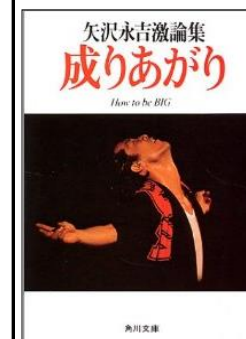
### 『いかにして問題を解くか』 G. ポリア



数学で問題を解くときの考え方を本格的に指南してくれる大変珍しい著書です。内容は難しいですが・・・粘り強く読んでいくと、とてもためになる本です。「考える」ことが好きな人にはオススメです。

## 芦田裕史 先生(商業科)

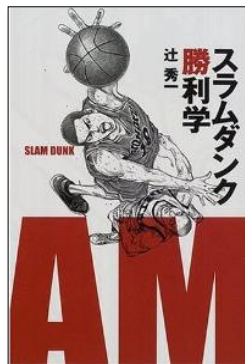
### 『成り上がり』 矢沢永吉



高校生の頃、目標を失ってしまった時にたまたま目にして手に取った本です。「スターになる」といって広島から夜汽車に乗って上京した少年・矢沢永吉の物語でした。成功までにたくさんの苦しみ、悔しさを乗り越えていく姿が印象に残りました。今でも自分に力が欲しいと思う時に読み返しています。

## 高木康正 先生(商業科)

### 『スラムダンク勝利学』辻秀一



漫画『スラムダンク』を題材に、スポーツ心理学をわかりやすく説明しています。部活をしている人だけでなく、普段の生活にも活かせるので、ぜひ読んでほしいです。

## 松浦いずみ 先生

### 『空飛ぶタイヤ』 池井戸潤



トレーラーから外れたタイヤが歩道を歩いていた主婦を直撃。某大企業のリコール隠しをベースに描く社会派ドラマ。登場人物にリアリティがあって引き込まれます。真面目にコツコツ働くお父さんにエールを送りたくなる1冊、ラストも秀逸です。

## 山崎弘一 先生(体育科)

### 『武士の娘』杉本鍼子



武士の娘として厳格に育てられた主人公が結婚し、アメリカに住むようになった。「武道」で身に付けたものを失うことなく、自立した考えを身に付けて生きていく様をかいた作品。

## 福島直美 先生(国語科)

### 『風と共に去りぬ』 ミッチェル



約150年前の「アメリカ南北戦争」を舞台にした、有名な小説です。南部の大農園主の娘の戦前の裕福な生活や、都会(アトランタ)の上流階級の婦人の戦争中の生活が描かれています(主人公はすぐ結婚し、すぐ戦争未亡人になります)。そして敗戦で皆が貧乏になった南部の田舎(故郷)や都会で、もと金持ちだった皆が苦勞をしながら生活を立て直していく様子が頼もしく、面白いです。

## 岡田弘秀 先生(英語科)

### 『ひとびとの聲音(あしおと)』司馬遼太郎



正岡子規の妹・律の養子となった正岡忠三郎とその友人の西沢隆二の人生や人々との交友を描いた小説です。司馬遼太郎の作品には珍しく、歴史的な事件や英雄は出てこない。

真面目で倫理的な生き方や、他人への思いやりが深く、誰に対しても誠実に接する態度は心を打ちます。

実際にこの二人と親交のあった司馬遼太郎は、この本を書き終えた時、「これで私はもう死んでもいい。」と言ったそうです。

ぜひ読んでみてください。

今月号は、図書委員の1年生(1-A山下・1-B猪原・1-C池田・1-D仁科)が先生方にオススメ本を伺いました!

小説や写真集など、様々なジャンルの本がそろっていますよ。

普段本を読まないという人も、ぜひ一度手に取ってみてくださいね。

笠岡商業高校図書館  
2014. 6. 30